

経営比較分析表（令和3年度決算）

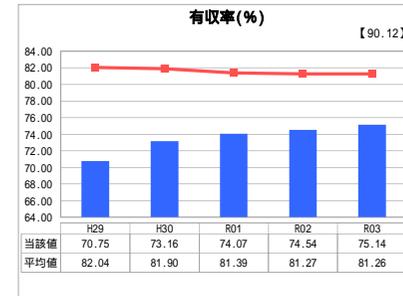
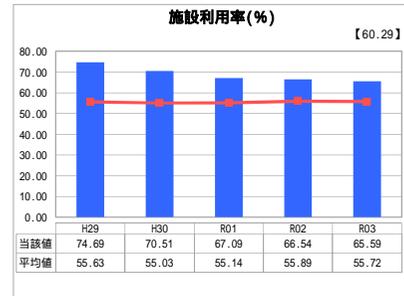
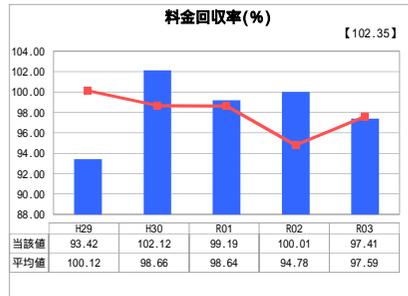
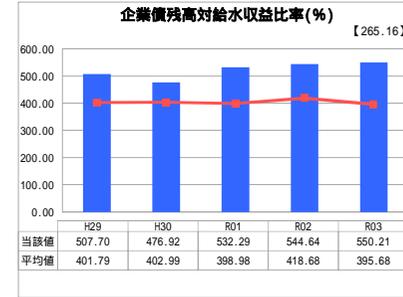
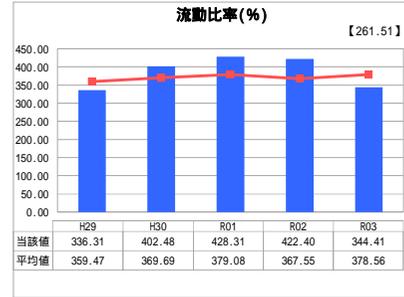
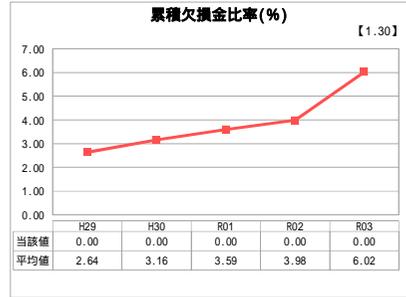
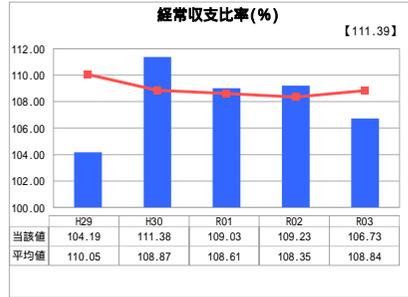
熊本県 阿蘇市

業種名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	68.53	83.03	2,629	

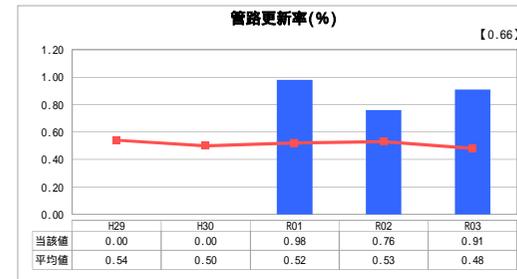
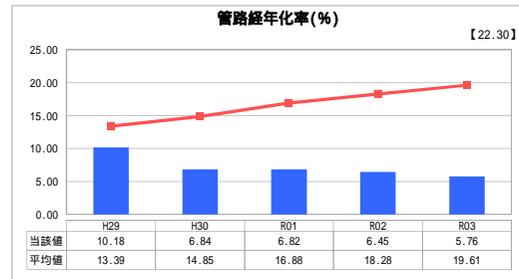
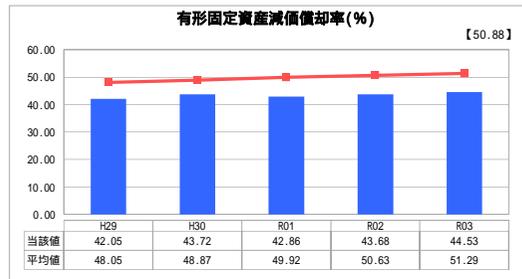
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
25,213	376.30	67.00
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
20,744	191.72	108.20

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
● 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率は100%を上回っており、累積欠損金もないことから、現時点では経営は順調に推移しているが、水道料金収入は減少傾向にあり、更なる維持管理費の削減を行い経営の効率化を図っていく必要がある。

流動比率は、類似団体よりも低い水準ではあるが、100%を上回っており、短期債務に対する支払い能力は十分である。

企業債残高対給水収益比率は、これまでの施設整備や更新に多くの企業債を発行してきたことによるものであり、類似団体よりも高い水準で推移している。この比率を減少させていくことが中長期的な課題である。

料金回収率は、100%を下回っており、類似団体よりも低い水準であるため、料金体制の見直しや滞納整理の強化を図り財源確保に努める。

給水原価は、豊富な地下水資源を有し、費用削減に努めていることから類似団体を下回っている。

施設利用率は、適正規模での運用ができており、概ね良好と考えているが、将来の水需要の減少を考慮し施設規模の適正化など検討を行う。

有収率は、熊本地震以降計画図の管路更新や漏水調査などにより、微増の改善は図られているが、類似団体の平均を下回っているため、更なる漏水対策に努める。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体平均を下回っている状況ではあるが、資産の老朽化は着実に進行しており、耐震化対策等を含めた長寿命計画を進めながら、将来の施設更新費用の確保に向けた取り組みも併せて進めていく必要がある。

管路経年率は、熊本地震復旧後から管路更新を進めており、類似団体を下回っている状況である。しかし、老朽化が原因での漏水も多く発生しており、有収率の向上につながっていない状況もあり、修繕が発生する管路の更新工事を優先的に進め、限られた予算の範囲内で効率的に更新事業を行っていく必要がある。

全体総括

現時点では、経常収支比率・流動比率は健全な水準を維持しているが、人口減少等に伴う水需要の減少、老朽化に伴う大規模な施設改修、更には多額の企業債の返済等、将来多くの課題を抱えており今後の経営は非常に厳しいものとなることが予測される。

水道事業のアセットマネジメント及び経営戦略に沿った事業推進や料金改定に踏み込み、経営基盤の改善・安定化に取り組む必要がある。

併せて動力費や修繕費などの経常コストの節減や、漏水調査・施設の効率的な稼働による有収率の向上に努める。